

令和2年度 特色ある道徳教育推進校（心の教育推進キャンペーン実施校） 県立柏特別支援学校

研究主題

道徳教育の「見える化」と「授業づくり」

取組1 道徳科の授業における「見える化」の工夫

工夫1 気持ちや内面に対する工夫



自分が映っている場面の動画



気持ちバロメーター

- 児童一人一人が日常生活の中で、言葉や表情で「ありがとう」を伝えている場面を動画にまとめ、提示した。「ありがとう」を言われた場面を見て、その時の気持ちを思い出し、気持ちバロメーターで表現した。
- 全員がそれぞれ、「ありがとう」を言っている動画を見て、クラス全体で称賛した。
- 日常で気持ちの表出方法として使っている
♥マークに顔写真を貼り、どんな気持ちか（上：にこにこ、下：えんえん）を表す方法で、思いを読み取った。

工夫2 考えをみんなで共有するための工夫



- それぞれが学校生活の中で「ありがとう」を伝えている動画からその場面を写真にして提示した。「ありがとう」と書いた吹き出しを順番に写真に貼り、みんなで共有できるように工夫をした。
- 動画の中で一番強調、共有したい場面を写真提示することが、その時の気持ちを考える手立てとなり、効果的に活用することができた。

工夫3 考えを深める場面での工夫



- 登場人物の気持ちを考える際、表情に注目して考えられるように、表情がわかる顔写真を提示した。
- 考えたことがわかるように、拡大した気持ちバロメーターに顔写真や吹き出しを貼り確認した。
- 感謝の気持ちを伝えられる場面を写真提示して、選択できるようにした。
- 選んだ場面に写真を貼ることで誰の意見かわかるようにした。

取組2 学校教育活動全般における道徳教育の「見える化」と道徳科とのつながり

学校の教育目標「明るく たくましく 自立をめざして」

- ・明るく、心身ともに健やかな児童生徒
- ・自ら学び、考え、表現できる児童生徒
- ・学校・家庭・地域で自立し、社会参加をめざす児童生徒

小学部の教育目標「明るく 仲良く 活動する児童」

- ・健康な体と豊かな心を持つ児童
- ・人や物に働きかけ、自分を表現できる児童
- ・自分から身の回りの事を行う児童

道徳教育の目標「社会でたくましく生きていく力を育む」

小学部 道徳教育の重点目標

- ・毎日の生活を積み重ね、基本的な生活習慣を身につける。
- ・様々な活動に取り組みながら、友達と仲良く活動する力や人と関わる力を育てる。

道徳科 年間指導計画 (小学部5年)		
時期(時数)	「題材」 *関連する教育活動	○ねらい【内容項目、関連項目】・学習内容
5月 (1コマ)	「あいさつはだれのため？」 *日常生活の指導	○笑顔であいさつをされた時、されなかった時の違いに気づいたり、違いを感じたりする。 【小1.2 B(8)礼儀】 【小1.2 A(1)善悪の判断、自律、自由と責任】
7月 (2コマ)	「ありがとうって気持ちいい」 *日常生活の指導(係活動)	○VTRを視聴し、「ありがとう」を言われたときや言われなかったときの登場人物の気持ちを考える。 【小1.2 B(7)感謝】 【小1.2 B(6)親切、思いやり】
11月 (2コマ)	「ありがとうでここに」 *日常生活の指導 *ことば・かず *各教科(図・音・体)	○「ありがとう」を言っているとき、言われているときの自分の気持ちに気づいたり、自分なりに感じたことを表したりする。 ○教師に「ありがとう」を言われたときに、どう感じたかを自分なりに表す。 【小1.2, 小3, 4 B(8)礼儀】 【小1.2 B(7)感謝】 【小1.2 B(6)親切、思いやり】
3月 (1コマ)	「教室がピカピカになったら？」 *日常生活(係、仕事) *生活(大掃除)	○汚れた机や床ときれいな机や床を見て、違いに気づいたり感じたりする。 ○きれいにする意味がわかる。 【小1.2 A(3)態度、節制】 【小1.2 A(5)努力と強い意志】

小学部 ことば・かず



友達や教師とやりとりする場面を多く設定し、相手を意識して人と関わる力を高めている。

中学部 職業・家庭



食器洗いや掃除を通して、働くことの大切さ、進んでみんなのために働くことなどの集団と社会との関わりを学習している。

高等部 総合的な探究の時間



作業学習や販売会を通して、勤労の意義について考えたり、礼儀、親切、思いやりについての理解を深めたりしている。

流山分教室 特別活動



流山高校と交流及び共同学習を行い、流高祭で、一緒に行事を作る中で、相互理解を深めている。

主な成果と課題

- 全校・学部授業研究会で、各学部の実践内容を共有することができた。講師の指導助言で道徳科の授業実践に関する理解が深まった。全校の学部を超えた教員で協議する場を設けたことで、教材や手立ての工夫など様々な視点から意見を出し合うことができた。
- 全体計画、別葉を整理し直し、道徳教育の実践を「見える化」することで、他教科・領域と道徳科の授業との関連性を考えた授業づくりができた。
- 道徳科の授業を要とした他の教科や学習活動との関連性を更に明確にしていきたい。各教科の指導計画に道徳科の授業を組み込み、どのような意図や観点をもって道徳教育を行っているのか、教員が意識できるようにしていきたい。
- 全校で授業内容の系統性を図れるように、実践を積み重ねながら学部間の共通点や相違点について整理し、学部計画や年間指導計画に反映させ、共通認識をもって取り組んでいきたい。

授業実践事例

特別支援学校 小学部5年 道徳科学習指導案

令和2年11月25日(水)

- 1 主題名 「ありがとうでにこにこ」
- 2 内容項目 B 礼儀 (県の視点「支え合う喜び」)
- 3 教材名 1日の中でありがとう～言えた！編、言われた！編～ (自作VTR)

4 主題設定の理由

本主題は、7月に行った「ありがとうって気持ちいい」に続き、感謝の言葉「ありがとう」に視点をあてる。VTRの登場人物が「ありがとう」を言われたときや言われなかったときの気持ち、「ありがとう」を言うとどんな気持ちになるかを考えた。どの児童も、登場人物の表情の写真や『気持ちバロメーター』を使用して、自分の気持ちや考えを表出し、「ありがとう」を言われると気持ちがいいことに気がついた。少しずつ「ありがとう」の言葉の意味や良さに気づき、日常の中でも、教師の手助けをする場面や、友達に優しく接する場面、「ありがとう」と言う場面が出てきている。

本授業では、学校生活で「ありがとう」を言っている場面を動画で確認し、自分や友達の姿やその時の気持ちを振り称賛し合う。さらに、児童に教師が「ありがとう」を伝える活動を入れ、友達に認めてもらったり、教師から感謝されたりする経験を通して、「ありがとう」の感謝の心を伝えると、みんなが笑顔になることに気づき、生活の中で「ありがとう」を言うきっかけになることを願っている。

5 ねらい

「ありがとう」を言われると、自分や友達の気持ちが嬉しくなることがわかり、自分から「ありがとう」の気持ちを伝えられるようにする。

6 展開

過程	学習活動と内容	発問と予想される反応	指導上の留意点 評価☆	教材・教具など
導入 (5)	○挨拶 ○道徳の学習の確認 ○本時の流れ ○ねらいの確認 ○7月の振り返り	道徳はどんな勉強？ ・おはよう ・こころ ・気持ち	・7月に使用した顔写真と場面カードを提示する。	・道徳カード ・順番表 ・7月の授業の掲示物
展開 (35)	○VTR① 「1日の中でありがとう～言えた！編」を視聴する。 ・どんな時に「ありがとう」を言っていたか確認する。 ・「ありがとう」の○を貼る。 ○VTR② 「1日の中でありがとう～言われた！編」を視聴する。	VTRを見て、気づいたことはありましたか？ ・ありがとうを言っていた ・～くんがいた みんな「ありがとう」って言えていたかな？ ・言ってたよ ・○○の所で言った ○○さんは「ありがとう」を言われてどんな気持ちだったかな？	・T2は「○○さんが出てきたよ」などの言葉をかけ注目を促す。 ・「ありがとう」を言っている場面確認のため、VTRを止め、拡大場面写真をホワイトボードに提示する。 ・「ありがとう」と言っていたねと言いつつ、本人の写真に○を貼るよう促す。 ・VTRに登場した児童毎に気持ちを聞きながら確認していく。	・TV ・PC(自作VTR) ・ホワイトボード ・拡大場面写真カード ・○カード ・気持ちバロメーター ・♡マーク

	<ul style="list-style-type: none"> ・♡マークを気持ちバロメーターに貼る。 <p>○「ありがとう」を言われた時のみんなの気持ちを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いいきもち ・わらってる ・にこにこ <p>みんなは「ありがとう」を言われてどんな気持ちになったの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらってる 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の気持ちを『気持ちバロメーター』の♡の位置で確認する。 	
<p>☆「ありがとう」を言われた時の気持ちに気がつき、自分なりに感じたことを表情や言葉で表していたか。</p>				
終末 (5)	<p>○「ありがとう」を言えた時、言われた時の気持ちを振り返る。</p> <p>○終わりの挨拶</p>	<p>「ありがとう」は言っても言われてもにこにこになるね。素敵だね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『気持ちバロメーター』でみんなの気持ちを確認する。 ・「ありがとう」が言えたことを称賛する。 	

7 他の教育活動との関連

学校教育目標
—小学部目標—

《日常生活の指導》日常生活の中で、場に応じた「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えられるようにする。

《各教科等と合わせた指導(ことば・かず)》ごっこ遊びや劇遊びを通して、人とのやりとりの言葉を覚えたり経験をしたりして、コミュニケーションの力を高める。

《特別の教科道徳》様々な活動に取り組み、友達と仲良く活動する力や人と関わる力をつける。

↓ ↓ ↓

〈事後〉友達や身近な人に親切にされた時に「ありがとう」と自分から感謝の気持ちを伝えられるように、日常生活や学習(図工、音楽、体育)の中で考える場面を作っていく。

8 授業の様子

(1) 児童の様子

○授業中の様子

- ・児童に身近な生活の様子をVTR教材にしたため、自分や友達、先生の姿によく注目していた。
- ・自分が「ありがとう」と言われたことに対して、それぞれ笑顔になったり「にこにこ」と言ったりして、自分の気持ちを表していた。

○参観者の意見

- ・日常の中で『気持ちバロメーター』を使っているため、子どもたちが自分の考えや気持ちを表現する手段として活用できていた。また、友達の考えや気持ちが表示され「見える化」することで、みんなが自分の気持ちを確認したり、他の人の気持ちを共有したりしやすかった。
- ・「にこにこ」の表現について、今後、中学部、高等部と年齢が上がる際、生活年齢に併せて言葉の表現を広げていく必要がある。

(2) 板書



ホワイトボード3枚を授業場面で使い分けるようにした。